



西三需辨  
上

武10  
678  
1





門武10  
678  
1-2

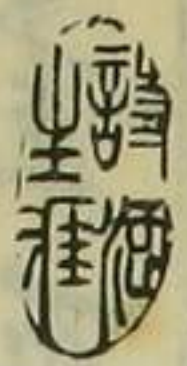
容齋上野政人諱述

# 泰西三需辨

書林

玉山堂

發兌



夫立家傑之士奮然立志  
雖欲為濟世安民之大業  
而身或罹疹疾也則中  
道而廢不能遂其志焉  
高家傑之士猶然而况其  
他乎是故人莫先於健



康生力而之方且其急於  
慎其衣食信而言今為  
之說者汗牛充棟不  
啻也然漠焉偏焉皆知  
其一而不知其二者也此  
上野天所以多好書也此  
畫所叙巨細畢集可謂

無患之漏矣人每就此畫而  
熟讀玩味先知生所醫  
戒多施諸實恐不則治疾  
初遠所謂濟世安民者  
亦可以庶幾也矣古謂人  
不可不知醫而凡相醫也是  
為序

卷之二 序

二



明治六年七月梅谷主人誠  
撰學傳并書



*Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters '泰西三需辨'.*

泰西三需辨題言

凡ノ濟世ノ要衣食住ノ三物ヲ以テ家モ大ナリ  
トス苟モ是カ適當ヲ失スルホハ意外ノ災害ヲ  
受ケン宜シク此需用ヲ撰ンテ天稟ノ生命ヲ養  
フヘシ詩云天ノ未夕陰雨セサルニ及テ彼ノ桑  
土ヲ取リ傭戸ヲ縑繆スト禽獸猶身命ヲ愛ス萬  
物ノ靈豈濟世ニ注意セサルヘケンヤ頃日英人  
哥克氏所著ノ經濟書中此三物ノ身體ニ適當ス  
ルノ論アルヲ以テ直チニ譯シテ同社ニ領シト  
ス稿稍成ルニ及テ英國ノ友人亞爾葛利地君此



舉ヲ聞キ贈ルニ同國加美倫氏ノ健全書ヲ以テ  
ス爰ニ於テ本編ノ欠漏ヲ増補シ且人身運動、病  
室手宛等ノ部ヲ抄譯シテ更ニ附録一編ヲ添フ  
予カ淺學寡聞ニシテ文章ノ拙劣ナル譯語ノ穩  
當ナラサル素ヨリ識者ノ嗤ヲ免レズ看者章句  
ヲ問ハスシテ單ニ用意ノ切ナルヲ隣察セハ幸  
甚

紀元二千五百三十三年七月

容齋 上野政人識

凡例

- 一 編中數量、尺度、權衡等ノ條件ニハ挿注ヲ以テ之ヲ記スト雖<sub>レ</sub>或ハ前ニ脫シテ後ニ掲ケ且少差異等ハ悉ク之ヲ録セス唯其概略ヲ述ルノミ
- 一 地名人名等ノ如キ挿注スルモ亦前條ト一般或ハ錯雜スル多カルヘシ看者前後ヲ通閱シテ之ヲ了解セントヲ乞フ
- 一 附録ニ至リテハ即チ本編ノ脫漏ト英文亦贈ノ健全書トヲ交錯セシモノナレハ條理貫通



セサルノ章アルヘシ畢竟忽卒採毫セシカ故  
ニ之ヲ訂正スルニ暇ナク強テ之ヲ為サント  
セハ遷延數月ニ亘ルカ故ニ僅ニ草稿ヲ添削  
シテ剞劂ニ付ス

明治六年癸酉七月 上野政人又識

泰西三需辨目次

第一編 家屋辨

- 第一章 位置ノ事
  - 第二章 乾燥ノ事
  - 第三章 汲干ノ事
  - 第四章 氣通ノ事
  - 第五章 貯水ノ事
- 第二編 飲食辨
- 第一章 適用ノ事
  - 第二章 護温食ノ事



第三章 成肉食ノ事 附滋養食消散食

第四章 成骨食ノ事

第五章 脂肪食ノ事

第三編 衣服辨

第一章 衣被ノ事 附革靴修履法

第二章 洗濯ノ事

目次畢



泰西三需辨

容齋 上野政人 譯述

第一編 家屋辨

夫レ家屋居室ノ位置ニ於ルヤ最モ注意セシ  
ハアルヘカラス第一日光ノ照射注入スルノ室  
ハ身體清爽愉快ヲ覺ユヘシ若シ之ニ反シテ陰  
鬱ノ地ヲ占ル時ハ身體不潔懊惱病因ヲ醸スニ  
至ル恐レサルヘケンヤ誤テ如是ノ地ニ待衢ヲ  
設クル時ハ時疫傳染病等非常ノ苦難ニ罹ルヘ





シ撰地ノ事最モ注意セサルヘカラス今家屋ヲ  
トスルノ至要ヲ論スルニ位置乾燥汲干貯水氣  
通ノ五章ヲ以テス其細目ノ如キハ件ヲ逐テ縷  
述スルヲ見テ之ヲ會得スヘシ

第一章 位置ノ事

正北或ハ北東ニ面スルノ家屋ハ此ノ反向即チ正南  
西東東南西ニ於ルモノヨリハ室内暗黒寒冷卑  
南等ヲイフニ於ルモノヨリハ室内暗黒寒冷卑  
濕ニシテ頗ルノ身ノ健康ヲ害ス  
都會ニ居室ヲ造ルトキハ傍近ニ不潔ノ商家或  
ハ墳塋等ノ蹟アルモノハ勉テ之ヲ避クヘシ

一家族ヲ保全スル者ノ為ニハ少クモ寢林三區  
ナカルヘカラス一ハ主人及ヒ妻ノ為ニシ一ハ  
男兒ノ為ニ之ヲ設ケ一ハ女子ノ為ニ之ヲ置ク  
ヘシ此他適宜ノ居室及ヒ浴室等ヲ要ムヘシ此  
規則ニ因テ之ヲ見ルハ唯ニ宗教儀式ニ拘泥  
セズ宜ク自然ノ性命ニ適合セシムルヲ專務  
トスル事知ルヘキナリ  
第二章 乾燥ノ事  
凡家屋ノ卑濕ニシテ居民ノ健康ヲ保全スルノ  
理ナシ抑卑濕陰鬱等多クハ地位ノ低凹ニシテ



瀦水ヲ汲干セサルト或ハ地底ノ涌泉等ヨリ起  
ルモノト知ルヘシ  
總テ卑濕ナル地ニハ二「フー」ト一「フー」トハ大畧  
或ハ三「フー」トノ高サニ土地ヲ積ミ上ケヨク突  
堅メテ後基礎ヲ設クヘシ一旦此少ノ費用アリ  
ト雖モ身體ノ健康及ヒ家材棟梁ノ永久スルニ  
於テハ其益亦多カラストセス  
力足ラスシテ此業ヲ為スト能ハサルハ家屋  
ノ周圍ニ煉化石一葉ヲ敷キ白堊ヲ以テ之ヲ糊  
著スルカ又ハ煉化石二片ノ間ニ石磬一箇ヲ交

互錯置スヘシ且又林上ニ木板ヲ敷クニハ必ス  
地ノ平面ヨリ高ウスヘシ此ノ豫防ヲ為スト能  
ハサルハ勤メテ卑濕ノ地ヲ避クヘシ北面ノ  
屋壁ハ永ク日輪ノ光焰ヲ受ルナクシテ常ニ  
濕氣ヲ帯ルカ故ニ此ノ傍ラニハ常春藤ヲ植エ  
ヘシコノ物ヨク降雨ノ流注ヲ支ヘ纖細ナル極  
根ヲ以テ屋壁ノ濕氣ヲ汲取ス  
雨濕ノ害ハ泉水ト一般汲浚シ盡スト能ハサル  
モノヨリ生ス若シ汲干ノ業ヲ欠クハ住民ノ  
健康ヲ戚害スヘシ即チ神經熱病、痢病、コレラ病



リウマチス病又ハ咳嗽病等ノ患害ヲ受ル事多  
シ

第三章 汲干ノ事

沮洳溜溜ノ乾カスヘカラサル地ハ務メテ家屋  
ト遠ク之ヲ隔ツルヲ要ス且陶器管ヲ以テ之ヲ  
疏注シテ抜キ去ルヘシ  
注水管ヲ以テ能ク汲干スル事都會ハ尚更勉ム  
ヘキノ最タリ如シ溜溜アルカ又ハ近傍ニ汲干  
欠乏ナル家屋ニ接シテ住ムヘカラス  
都會ハ勿論田舎ニ於テ家屋ノ近傍ニ蓋ナシノ

溜溜又ハ糞槽ノ類ヲ置ク時ハ必ス健康ヲ害ス  
ル事無識ノモノト雖トモ亦之ヲ知ルヘシ故ニ  
家ノ貧富ヲ問ハス最テ此ヲ洒掃スル事緊要ノ  
事務トス

第四章 貯水ノ事

貯水ハ沐浴割烹及ヒ濯衣ノ為メニ充實セサル  
ヘカラス  
浅井ヨリ排水器ヲ以テ汲取ル片ハ近傍ニ溜溜  
ノ有ルヤ否ヤヲ見ルヘシ仮令近カラサルモ土  
中ヨリ流通シテ肉眼ニハ見エサレモ不潔物ヲ



混入スル事アリ撰ンテ沮洳ノ地ニ近ツクヘカ  
ラス  
排水器ヲ以テ水ヲ汲取スルキハ成ル丈ケ溜桶  
ニ貯ヘスシテ時々汲換ヒヘシ目今都下多クハ  
溜桶ヲ用フ假令之ヲ用フルモ精細ニ洗滌シテ  
苔蘚ヲ生セシメサルヤウ注意スヘシ蓋シ塵芥  
ノ入ラヌヤウ密ニ蓋フ<sub>ト</sub>勿論タルヘシ  
溜桶ノ邊ニ塵埃又ハ惡臭ノモノヲ置ク時ハ漸  
々其ノ臭氣ヲ噲收シテ水分ヲ不潔ナラシムル  
カ故ニ是等ノ用意尤モ勤ムヘシ

割烹ニ用ヒンカ為メ雨水ヲ貯フルニハ石盤或  
ハ平石煉化石スハ磁器瓦磐ノ溜桶ニ「ロー」白  
堊ヲ以テ密封シテ用フヘシ止ヲ得スシテ木槽  
ヲ用ルキハ毎日掃攘洒灑セサレハ苔蘚ヲ生シ  
テ必ラス水分ヲ汚穢セシムルモノナリ

第五章 氣通ノ事

通常家屋ノ氣通ハ室内ニテ煖メラレタル空氣  
ノ昇騰ヨリ生ス即チ呼吸蠟燭點燈瓦斯等ノ燒  
燃スルニヨリ不潔ノ空氣温素ヲ含ミ室内ノ天  
井ニ躋リ清淨新鮮ノ空氣下ヨリ此レニ交代ス



故ニ住室ニ能ク氣通セシメントスルハ爰ニ  
小穴二箇ヲ穿ツヘシ一ハ上ニ在テ上騰スル所  
ノ氣ヲ去リ一ハ下ニ在テ新鮮清浄ノ氣ヲ輸入  
ス是ニ於テ新陳替謝シテ日々ニ清浄ノ氣ヲ蓄  
フヘシ  
普通ノ住屋ニ於テ不潔ノ空氣ヲ煙筒ヨリ出ス  
ヘケレト火鑪ノ上ニハ多ク不潔ノ氣ヲ残スモ  
ノナリ又別ニ氣穴ヲ設ケサルモ障子或ハ窓板  
ノ周圍ヨリ空氣ヲ容ルヘシ  
若シ煙筒要求スル所ノ適宜ノ氣ヲ容ル、事能

ハサレハ火鑪火必ス薰煤スマタ火鑪ヨリ離レ  
タル窓牖ノ上側ニ平滑ナル亜鉛版ヲ以テ外部  
ノ氣ヲ入ルヘシ細小ノ通路ニテ亜鉛版ヨリ引  
クトエロノ空氣ハ自然氣通ヲ妨グル所ノ不潔  
ノ氣ト親和シテコノ醜氣ノ逃避ヲ催進セシメ  
ンカ為ニ之ヲ設クルモノナリ  
窓牖火鑪ニ反向スルハ全室内ノ空氣逐次ニ  
變遷スヘシ加之天井ニ煙筒ノ小穴ヲ穿ツハ  
新陳代謝シテ尚ホ一層ノ健康ヲ増スヘシ  
煙煤ノ壓突ヲ障ヘシ為ノ煙筒ノ小穴ニ辨ヲ附



スヘシ若シ外貌ヲ飾ルキハ小穴ヲ穿チタル平  
 滑玻璃版ヲ以テ亜鉛版ニ換ヒ煙筒辨モマ夕雕  
 鏤シテ修飾スルモ妨ケナシ  
 寒冷ノ氣ハ其ノ吸入ノ口煖罈ニ近カラサレハ  
 上部ノ惡氣ヲ遣シ其清氣火罈ノ方ニ流通スル  
 カ故ニ牖戸或ハ居室ノ下邊ヨリ之ヲ入ル、事  
 ノカレ誤テ之ヲ入ル、片ノコノ流通ノ為メ肢  
 脚ノ寒氣ニ觸レ感冒ヲ受ル<sup>ト</sup>多シトス  
 寢室内ノ火罈ハ煙筒版火罈ノ背面ヨリ烟筒ニ  
接スル吸ノ口ヲ掩フハ  
 キノ蓋ヲ以テ掩フヘカラス若シ火罈ナキ片ハ  
 ワイフ

亜鉛版ヲ以テ戸ノ上ニ穴ヲ設クヘシ又他一氣  
 通ノ方術ナキ片ハ戸版ノ上隅ニ大凡直径半<sup>イ</sup>  
ンチハ<sup>一</sup>イ<sup>ン</sup>チ<sup>ハ</sup>我  
ハ分<sup>三</sup>厘<sup>強</sup>ノ竅ヲ通スヘシ  
 第二編 飲食辨  
 第一章 適用ノ事  
 人間及ヒ動物ノ嗜好スル所ノ食品タルヤ各其  
 體中ニ輸入シ各部滋養<sup>功</sup>ヲ奏スルモノナリ  
 先ツ其第一部ハ自然ノ温煖ヲ生スルカ為メニ  
 耗散シ其第二部ハ關節其他ノ運動操作スルニ  
 因テ生スル所ノ日々ノ費耗ヲ補ヒ身體ノ生育



ニ要用ノ性質ヲ為ス其第三部ハ骨髓及ヒ血液  
ニ含有セル所ノ礦質分及ヒ塩分ヲ具備ス  
米漿等ノ粘糊質ノ物砂糖脂肪膠及ヒ雞卵ノ白  
肉ノ如ク淡泊ノモノハ只此ノ的用ノ一ヲ務ム  
ルカ故ニ此單味ヲ以テ久シク生活ヲ保全スル  
事能ハストス

幼稚ナル動物ヲ生育センカ為メニ造物主ノ釀  
成スル所ノ食物中ノ一ナル乳汁ハ身體ヲ健康  
ニシ及ヒ氣力ヲ増ス事ニ於テ樞要ナル物質ノ  
一例トナス此物ニ於テ百分中四分餘ヲ含ム所

ノ砂糖分ハ活物ノ温素ヲ保有ス此ノ中ニ脂肪  
ヲ造ル所ノ酪脂肪ヲ具フ又乳分ハ日々ノ運動ヨ  
リ起ル所ノ費耗ヲ補ヒ且ツ筋骨ノ生育ヲ助ケ  
頗ル滋養ヲナス加之淡汁分ハ成骨分及ヒ塩分  
ヲ與フ

第二章 護温食ノ事 附呼吸食、炭酸食

人間及ヒ其他動物ノ凡テ温素ヲ受ル所ノ度ハ  
呼吸ノ動作ニ依リテ耗散ス故ニ食物以テ之カ  
欠乏ヲ裨補セサルヘカラス就中緊要ナル護温  
ノ食物ハ米漿砂糖分樹木ノ粘膠植物ノ軟細織



緯及ヒ脂肪ノ物質等ナリ  
 是等ノ物ハ呼吸ニ於テ消耗シ且之ヨリシテ肉  
 重ノ温素ヲ生スルカ故之ヲ呼吸食ト名ツク以  
 上ノ食物ハ又多量ノ炭素ヲ含有シ呼吸ニ於テ  
 炭酸ト為リテ輸出ス故ニ又コレヲ炭酸食ト名  
 ツク  
 人間身體ノ温度ハ四季ノ節序ヲ問ハス又氣候  
 ノ寒煖ニ關セス平時健康ノ時ハ大畧百度ヲ以  
 テ適宜トス但シ寒冷ナル氣候及ヒ五寒ノ土地  
 ニテハ護温食ノ分量ヲ増スノミ

身體運動ノ他操作スルノ際ハ必ス呼吸ヲ急  
 促ス故ニ其肺中ヨリ輸出スル炭素ノ量ヲ増ス  
 若シ之ニ反シテ靜止スルカ又ハ睡眠スルノ間  
 ハ呼吸遲延シテ費耗スル所ノ炭素モ亦從テ減  
 少ス  
 適宜ニ運動スルモノハ身體ノ温度ヲ保有セン  
 カタノ粘糊分砂糖分十八<sup>一</sup>オンス<sup>一</sup>約我ハ<sup>ス</sup>ハ大  
 當及ヒ<sup>ル</sup>ノ他炭酸食物ノ適度ヲ要求スヘシ此  
 ノ粘糊分ヲ得<sup>ル</sup>ニハ大抵麵包<sup>一</sup>ポ<sup>ン</sup>ト<sup>ハ</sup>大畧  
 我百<sup>二十</sup>々<sup>四</sup>分<sup>ノ</sup>三<sup>及</sup>ヒ馬鈴薯<sup>七</sup>ポ<sup>ン</sup>ト<sup>半</sup>ヲ  
 許<sup>ニ</sup>當<sup>ル</sup>



喫スヘシ是ハ即チ中等ノ比較ヲ採リテ記載ス  
ルモノナリ故ニ平常靜止シテ操作運動セサル  
モノハ此ノ折半ヲ以テ足レリトス又非常ニ勞  
動スルモノハ殆ント此ノ高ニ倍シテ之ヲ喫ス  
ヘシ

### 第三章

#### 成肉食ノ事

附 滋養食、消散食

幼稚軟弱ナル動物ノ生育及ヒ關節四肢ヲ動作  
スル日々ノ費耗ヲ補フニ要用必需ナルモノハ  
成肉即チ滋養食類ト號ス此ノ物ハ呼吸食中ニ  
アラサル所ノ硝酸ヲ含有スルカ故ニ硝酸食ト

云フ  
此物質ノ滋養上ニ就テ最モ樞要ナルハ動物ノ  
肉ノ纖維膠質白蛋及ヒ乳酪質等ヲ含蓄スレハ  
ナリ

現今分析家ノ發明シタル所説ヲ以テ考フルニ  
上文ニ記シタル食物ニ等シキモノ假令同一ナ  
ラサルモ尚ホ植物中ニ含有ストイフ奈何ント  
ナレハ膠質分ハ麵麥ナリ其他ノ穀物ハ以テ肉  
ノ纖維ニ匹似ス白蛋ノ質ハ穀粉中ニ存ス青豆  
ノ類ハ硝酸及ヒ滋養ヲ持ス身體ノ費耗ヲ補フ



カ為メニハ此物類ヲ平均シテ二十四時間ニ大  
 凡五<sup>一</sup>オン斯拉用フルヲ適度トス  
 體ノ温度ヲ保有スヘキ呼吸食ヲ含ム所ノ麵包  
 一<sup>一</sup>ポント四分ノ三中ニ膠質分僅カ三<sup>一</sup>オンスニ  
 過キス残りニ<sup>一</sup>オンスノ膠質ヲ欠クカ故ニ獸肉  
 半<sup>一</sup>ポントヲ以テ其缺ヲ補ハサルヲ得ス此ノ半  
 一<sup>一</sup>ポントノ肉中ニハ纖維分ニ<sup>一</sup>オンス及ヒ乳酪分  
 四<sup>一</sup>オンスヲ含有スルヲ以テ麵包中ノ欠乏ヲ裨  
 補スヘシ若シ帝ニ麵包ヲ以テ生活セント欲セ  
 ハ三<sup>一</sup>ポントヲ以テ滋養分ヲ得ヘケレハ粘糊分

ノ費耗少シトセス又卓ニ馬鈴薯ヲ以テ食ト為  
 スルハ滋養分ノ適宜ノ比例ヲ得ントスルニ二  
 十<sup>一</sup>ポント餘ヲ取ラサレハ給ラス是ニ於テ十<sup>一</sup>ポ  
 ントノ馬鈴薯ヲ以テ二<sup>一</sup>オンス半ノ滋養分ヲ取  
 リ他ノ二<sup>一</sup>オンス半ハ獸肉雞卵牛乳乾酪ヲ以テ  
 缺ヲ補ノヘシ此等ノ事ハ分拆家ノ所説ニ出ル  
 カ故ニ此書ノ主意ニアラスト雖トモ之ヲ辨セ  
 サレハ食物ノ種類ノ主用奈何ヲ知ル事能ハサ  
 ルカ故ニ爰ニ食物ノ性質ヲ辯駁スルモノナリ

第四章 成骨食ノ事



幼穉嬰弱ナル動物ノ骨體生育及ヒ壯年又ハ漸  
老ノモノ、毎日ノ費耗ヲ補フル為ニ必需ナル  
土質分ハ是亦食物ノ中ニ之ヲ要求スヘシ若シ  
此ノ成分ヲ欠クキハ忽チ機關ノ虛弱ヲ起スヘ  
シ  
穀物中ニ在テハ土質分ハ必ラス外殼ニアリ是  
ハ即チ純精ノ細粉或ハ白麩包等ヨリハ粗糙ナ  
ル粉末及ヒ黒色麩包ノ却テ滋養ヲ成ス所以ナ  
リ  
成骨ノ土質分ハ牝牛ノ喫秣ノ消化セルヨリ分

泌ンタル所ノ乳酪ニ於テ其比例多シトス  
人身體中ノ血液ニ多ク存スル所ノ鹽分及ヒ礦  
質分ハ新鮮ナル蔬菜中ニ於テ其効寔モ灼然タ  
リ是即チ野草園菜ノ他ノ食類ヨリ多量ノ土質  
分ヲ含有スレハナリ  
第五章 脂肪食ノ事  
總テ動物ノ體中ニ多少アル所ノ脂肪ハ皆其喫  
スル所ノ食物ヨリ之ヲ賡給ス  
凡百ノ穀物ハ油分多シトテフ麩粉ノ百「ポント」  
中ニ二「ポント」乃至四「ポント」ヲ得ヘシ其外殼



至リテハ五「ポ」ントヨリ六「ポ」ントニ至ルカリスキ 麥奴ニ  
在リテハ五「ポ」ントヨリ八「ポ」ントニ至ル  
人身ニ取リテ脂肪ノ重要ナル身體ノ日々ノ費  
耗ヲ補ヒ天温ヲ保護スルノ呼吸食トナル故ニ  
寒帯ノ地ニ住スルノ民ハ他ノ地方ニ比スレハ  
五寒ノ患苦ヲ避ケンカ為メニ多ク脂肪分ヲ仰  
カサルヲ得ス  
又此脂肪過度ナルハ動物體ノ各部ニ肥滿膨  
脹ス其徵候ハ毎ニ家畜類ニ於テ最モ多キヲ見  
ルヘシ

### 第三編 衣服辨

#### 第一章 衣類ノ事

蒼生此ノ地球上ニ生出シテ天賦固有ノ衣裳ノ  
具ナキハ各ノノ住ム所ノ氣候ニ依テ其品格ヲ  
殊ニシ其ノ住所ニ就テ各適當ノ衣被ヲ需ムヘ  
キ所以ナリ  
衣類ノ用法土地ニ因テ其品格ヲ異ニスルノ辨  
ハ既ニ上章ニ説タルカ如シ譬ヘハ熱帯ノ地ニ  
住ムノ人ハ太陽ノ烈シキ光線ノ皮膚ニ射入ス  
ルヲ防キ且ツ空氣ノ裡面ニ流通スルヲ要ス故



ニ東方ノ人民ハ此豫防ヲ為シカタメ薄布粗糙ノ衣被ヲ用フヘシ漸ク寒冷ノ地方ニ至レハ大氣ノ溫度身軀固有ノ溫度ヨリモ減却スルカ故ニ自己ノ溫素ヲ保護シテ他ヘ嚮引セラレサル所ノ衣服ヲ覆ヒ以テ体温ヲシテ逃避セサラシメン事ヲ務ムヘシ

英吉利國ノ如ク不定ノ候行ハル、ノ地ニ於テハ尤モ衣類ニ注意セサルヘカラス大凡皮膚ニ惡寒ヲ覺ユル時ハ即チ血液ノ運行増加シ隨テ熱ヲ發シ内部機關ノ障害ヲ起ス若

シ此症ニ感スル所ハ忽チ皮膚ノ動作ヲ妨ケ蒸發氣ヲ閉止シ自ラ心神ノ不適意ヲ覺ユヘシ故ニ寒天ニハ殊更ニ溫度ヲ保全スヘキ充分ノ衣類ヲ蓋フ事最モ濟世ノ要旨トス左ニアラサルトキハ呼吸食即チ護溫食味ノ分量ヲ増加セサルヘカラス何レノ國ニ住スルモ人各勤メテ皮膚ニ惡寒ヲ覺エサルヤウ衣類ヲ適宜ニ被ル一一般ノ法則ト為スヘシ英吉利國ノ如キハ衣類ニ種々ノ惡風アリ特ニ



少女ハ咽喉ノ周圍及ヒ胸膈ノ上部ヲ被包スル  
事ナキハ頗ル消化機ヲ障害スト雖凡從來此風  
俗ヲ以テ他國ノ人ト交接スルノ禮讓ト定メラ  
レタリ  
又足脚モ多クハ之ヲ被覆セサルカ故ニ咳嗽或  
ハ感冒ヲ受ルコト多シ  
人々通常用フル所ノ衣服ノ品種ハ棉布麻布毛  
絨及ヒ絹帛等ナリ其中ニ棉布ハ其質柔軟温暖  
ナルヲ以テ衣裳ト為シテ最モ可ナリ麻布ハ其  
性温暖ナラス唯其色ノ鮮明ナルノミ且其價モ

亦貴クシテ消耗ハ却テ速カナルカ故ニ經濟ヲ  
考フレハ綿衣ノ善美ナルニ如カス  
莫吉利國ノ如キ不定ノ候中ニ於テ殊ニ寒候ニ  
ハ毛布ヲ纏フト最上トス皮膚ニ襯被スル所ノ  
「フ」子ルヨリ得ル所ノ温度及ヒ其ノ粗糙ナル  
細竅ヨリ蒸氣ヲ發達セシカ為メニ發動スル事  
ハ皮膚ヲシテ健康ニ動作ナサシメシ為ナリ故  
ニ毛絨類ハ護温攝生ノ要物タリ  
幼穉軟弱ナル小兒ニ於テハ必ラス之ヲ用フヘ  
シ若シ疎放ニシテ衣被ヲ薄クスルハ忽チ寒



威ニ侵サレ苦悶セシムル事アリ人ノ親タルモ  
ノ、大失錯ト云フヘシ  
世間多クハ意ヲ用ヒスシテ往々斯ノ如クスル  
者アリ性質脆弱ナルモノニ至ツテハ忽チ不起  
ノ嶮瘖ニ罹ルヘシ恐レサルヘケシヤ  
水夫又ハ獵人ノ如キ或ハ激浪怒潮ヲ冒シ或ハ  
山瘴烟靄ヲ凌キテ業ヲ營ムモノ、皮膚ニ粗糙  
ナル「フ」ヲ子ル「ル」ヲ著クルヲ見テ大ニ其理ヲ發明  
スヘシ  
往昔ヨリノ規則ニ常ニ取上ノモノハ尤モ廉ナ

リト云フ事ハ恐ラクハ他ノ物品ヨリハ衣服ノ  
事ニ用ヒテ恰モ適當スル語ナルヘシ  
低價ノ物品ヲ購求スル事ハ經濟ヲ誤解シタル  
意ヨリ出ルナリ百物總テ價卑ケレハ隨テ費耗  
スル事ノ速ナルハ論ヲ待タス費耗速カナルカ  
故ニ屢々之ヲ購求セサルヲ得ス是レ却テソノ  
價ノ昂上騰貴ナルニ至ル所以ナリ  
各國衣服ノ裁縫制度タルヤ實ニ非常ノ殊異アリ  
譬ヘハ一社中ニハ各其社中ノ服章アルカ如  
ク身体ニ資テ不便不利ノモノモ多クレハ皆自



ヲ風ヲ為シテ一様ナラサルヲ能ハサルモノナ  
リ  
譬へハ英吉利國ニ於テ男児ノ戴ク所ノ帽ハ廣  
大ニシテ形容頗ル醜惡且不便ナリ奈何ニトナ  
レハ是ヲ以テ日輪ノ眼射ヲ照射スルヲ蔭フ事  
能ハス又雨濕ノ頭髮ヲ沾ホスヲ包護スルニ足  
ラヌ故ニ工業ヲ營ムモノハ身ニ取リテハ毫モ  
違スルヲナシトス又女子ノ服制ニ於テ胸當紐  
ノ如キ障害アルモノハ漸々ニ廢セラレタリ此  
物ハ只ニ胸ヲ意外ニ疲瘦セシメテ其形容ヲ變

換セシカタメニ無益ニ贅物ヲ用ヒタル者ナリ  
此ノ胸當紐ヲ永ク用ヌルハ軀幹瘦瘦スルカ  
故ニ身体ノ生養ニ關係スルヲ以テ近來之ヲ損  
斥セラレタルナリ  
此物唯背部ノ筋ノ運動ヲ害スルノミナラス男  
児ヨリハ女児ニ於テ醜貌病ノ多キモコノ故ナ  
リ此物又肺胃ノ他ノ機關ノ操作ヲ妨ケ終ニ  
身体ヲ疾病ニ沉填セシム小児若クハ女児ノ骨  
骸ハ壯年ノ者ニ比スレハ脆弱ナルカ故ニ容易  
ニ靡窳セラレ、ヲ以テ甚タ身体ノ害トナル能



ク心ヲ用フヘシ  
 通常用フル所ノ革履ノ形状前部細尖ニシテ至  
 テ狹隘ナルカ故ニ足ノ五指並列スルトハ殆ト  
 反對ナルヲ以テ大ニ妨害トナルモノナリ  
 人各足ノ形状ヲ摸取スルニハ一片ノ紙上ニ直  
 立シ鉛筆ヲ以テ周圍ニ細線ヲ畫シ之ヲ騰寫シ  
 テ足ニ適合スルノ脊ヲ製造セシムヘシ決シテ  
 履ニ足ヲ適センコトヲ勤ムヘカラス專ラ足ニ之  
 ヲ適合セシムルヲ要スヘシ  
 小兒ハ取分ケ足骨ノ柔軟脆弱ナルカ故狹隘ナ

ル革履ノ為メニ足指ノ形容ヲ變スルモノ儘多  
 シト云フ此弊終ニハ多少跛状ヲ起シ且勉強シ  
 テ永ク運動スル能ハサルニ至リ生涯ノ不具ナ  
 ナル恐レサルヘケンヤ  
 雨天ノ日ニハ抹膠外履カ又ハ革履ニ漆膠ヲ鬆  
 リシ垢革ヲ用ラルルハ足ヲ乾燥シテ雨濕ヲ受  
 ルコトナク且温煖ナラシムヘシ  
 連日ノ霖雨又ハ微雨ノ時節等ニ熟革ノ脚履又  
 ハ革履ヲ用フルモノ、為ニハ左ノ油膏ヲ用テ  
 窠モ良トス



其法

- 一 胡麻油 一「キ」ル七勺許 和量大約
- 一 松節油 一「オ」ンス八勺許
- 一 蜜蠟 一「オ」ンス
- 一 松脂 半「オ」ンス

右ノ四味ヲ混和シ爐火上カ又ハ日光ノ照射ス  
 ル場所ニ出シテ全ク乾クマテ履ノ外部ニ之ヲ  
 摩擦スヘシ  
 此調劑ヲ用フルキハ海水並ニ雨濕ノ為メ一草  
 ノ腐敗ヲ防クヘシ

五寒ノ地ニ住ムモノカ又ハ天稟柔軟疲弱ナル  
 モノ、為メニハ足脚ヲ乾シ温ムルヲ肝要ナリ  
 若シ斯ノ如ク為ルヲ得スンハ冬期ニハ細軟ナ  
 ル毛織ノ袜子ヲ用フルヲ良トス  
 編組セル所ノ袜子ハ器械ヲ以テ織リタルモノ  
 ヨリハ却テ温カシテ且費耗壞損スルコトモ  
 亦晚カルヘシ  
 穉幼ナル小児ノ為メニハ殊更足脚ヲ温煖セカ  
 ルヘカラス心ヲ用ヒテ適當ノ温度ヲ與フヘシ  
 頭腦ハ却テ少シク清爽微涼ナルヲ善トス故ニ



夜間小児ノ頭上ニ帽子ヲ戴カシムルヲ良トセ  
ス其故奈何ナレハ腦部ニ血液ヲ驅逐シ翌日  
ノ晝ニ至リテ空氣ニ突觸スルキハ忽チ感冒ヲ  
受ルヲ以テナリ

此條下ニ衣被各種ノ價格ヲ算當セン事ヲ  
企望スレトモ其種類ノ夥多ニシテ際限ナ  
ク其價ノ如キハ時ヲ逐テ昇降極リナキカ  
故ニ暫ク之ヲ省略セリ

通常小賈ヨリ物品ヲ購賒センヨリハ盛大ナル  
店舗ニ就キテ之ヲ購求スル所ハ必ラス其價廉

ナルモノナリ瑣細ノ物件ヲ要求スル所必賣主  
ヨリ正實ノ證券ヲ取ルヘシ鋪肆ニヨリテハ一  
ヤルトニテ一二ヘンス<sup>一ヘン</sup>貨<sup>一ヘン</sup>ニ<sup>一ヘン</sup>許<sup>一ヘン</sup>ニ<sup>一ヘン</sup>當<sup>一ヘン</sup>ル<sup>一ヘン</sup>位<sup>一ヘン</sup>ノ<sup>一ヘン</sup>品<sup>一ヘン</sup>  
物ヲ賣ル<sup>一ヘン</sup>所<sup>一ヘン</sup>アル<sup>一ヘン</sup>ヘシ若シ欺ムカレテ齟齬ヨリ  
斯ル低價ノ物ヲ購フ所ハ再ヒ洗滌スルヲ得ス  
且衣被ニ耐サルノ品物ヲ買フ所アルモノナリ  
青年紅顔ノ人カ殊ニ婦人等ハ外套ノ設ケノ為  
メ斯ル物品ヲ賒ル所アリ注意シテ是等ノ物ヲ  
購フ所勿ルヘシ凡ソ花美ト稱スル所ノ物ニ付  
テ注意セサレハ屢誤ル所アルヘシ

表西三十四年辛

卷上



婦人ハ正シキ著服ヲ修飾スヘシト云教法宗徒ノ命令ハ必ラス違乖スヘカラス

第二章 洗濯ノ事

衣服ヲ洗滌スルニ就テ需用ノ物品ハ第一ニ用水石礮曹達或ハ時トシテ真珠灰等ヲ用フル事アリ

凡人家中ニ支給スル所ノ用水ニ固軟二種ノ區別アリ

固水ハ通例溶解スル所ハ少量ノ白堊ヲ保有スルヲ以テソノ主質ヲ為ス

倫敦ニ於テ井水ハ時トシテハ一「カルロ」ニ

ハ和量ニ升ニ中ニ八十「グレ」我秤量一厘五

フ含有ス「テム」ステムハ河ハ英國ノ都府

水ハ大約十四「グレ」然ルニ雨水ニ至

ソテハ毫モ此ノ物質ヲ見ル事ナシ又清水ハ一

「カルロ」中白堊一「グレ」ヨリ多カラス

縦令白堊ノ分量多ク溶解スル所自然ニ水中ニ

多少含有スル所ノ炭酸ト辨スル瓦斯ノ親和力

ヲ以テ容易ク水中ニ之ヲ混濁スヘシ

此ノ炭酸瓦斯ハ煎煮ニヨツテ蒸發ス多ク試験



者ノ論説スル如ク水ノ熱點ニ達スルノ前ニ細  
小ノ珠玉状ト為テ遁逃スヘシ  
炭酸ヲ取除クキハ白堊其ノ溶解カヲ失フカ故  
ニ崑石又ハ皮殻状ヲ成シテ凝固躰トナリ釜鏝  
或ハ茶瓶ノ底ニ残ルヘシ  
「<sup>1</sup>」テムス「<sup>2</sup>」河水ハ熱點ニ至ルマテノ際ニ一「<sup>3</sup>」カル  
ロンヨリ白堊ニ「<sup>4</sup>」グレインヲ出ス五分時間之ヲ  
烹ルキハ殆ントソノ半ニ減ス又半時間ニ至レ  
ハ一「<sup>5</sup>」カルロン毎ニ白堊四五「<sup>6</sup>」グレインヲ残シテ  
凡テ凝固状トナル

凝固状ノ此種類ハ通例烹煎スト雖モ逸避スヘ  
カラサルモノニテ水ノ固質ト異ナリ唯永久固  
形ト假リニ名状シタルモノナリ英國「<sup>7</sup>」ウェンス  
ホルン「<sup>8</sup>」河水ノ如キハ此質ヲ有セリ  
永久固形ヲ有スルノ水ハソノ中ニ溶解セシ  
所ノ礫黄石灰ノ為メニ此質ヲ成セルカ故ニ他ノ  
モノヨリノ稀ナリトス  
白堊ノ存在ニヨリテ成セル水ノ固質ハ飲料類  
「<sup>9</sup>」フニ用ヒテ防ケナシトス然レハ調理或ハ洗  
濯ニハ用フヘカラス



若シ洗濯ニ之ヲ用ルキハ石礮ヲ費ス事甚多シ  
 白堊一「グレーション」ハ泡沫ヲ生シ洗濯シテ清浄潔  
 白トナス迄ニハ石礮ノ量十倍ヲ失フヘン「テ」  
 ムス「河水ノ熱點ニ至ル前一百「カルロン」ハ石礮  
 ニ「ホント」餘ヲ費スヘシ  
 調理割烹上ニ取テ固質水ハ蔬菜ノ類ニ害アリ  
 トス且ツ既ニ説タル如ク茶ヲ煎テ久シク之ヲ  
 置クトキハ亦良カラス然ルト雖「是」等ノ妨害  
 ハ能ク之ヲ烹煎シテ軟質トナスカ或ハ結晶曹  
 達ヲ用フレハ此患ヲ除クヘシ持リ永久固形ニ

至リテハ然ラス烹煎スレ「是」軟質トナラス故ニ  
 蔬菜ヲ煮ルニ用フヘカラス殊ニ縁豆ヲ煮ルキ  
 、忽チ凝固スルモノナリ腐敗シタル植物又ハ  
 糞屎ノ如キ水中ニ在テ全ク消化セサル細微ノ  
 物質ハ軟沙粉末木炭浮石等ヲ以テ濾過シテ漸  
 ク之ヲ除去スルヲ得ヘシ  
 濾漉器ハ飲料及ヒ眼ニ用ル水ヲ資給セシカ為  
 ノニ必需ノ物トス然ルト雖「是」既ニ水中ニ溶化  
 シタルモノヲ除キ去ル事能ハス又汚濁水溝洫  
 等ノ接近ヨリ混入セル醜惡ノ汚浼又ハ固質ノ



混淆物ハ之ヲ除ク事能ハサルモノナリ  
他ニ良水ヲ需ムルノ策ナク止ムヲ得スシテ此  
類ノ水ヲ用フルモノハ必ラス濾過スルノ以前  
ニ能々烹煎スヘシ  
白礬ヲ以テ混濁ノ水ヲ清浄ニスルヲ得ヘシ其  
法水一「カルロン」中ニ七八「グレ」量ヲ投ス  
ヘシ此物ハ所在ノ彩色顔料ノモノ及ヒ肉眼ニ  
見ユル所ノ不潔物ヲ沉澱セシム然レトモ白礬  
ノ溶化シテ久シキヲ経レハ永久凝固状トナル  
カ故多クハ之ヲ用ヒス

衣服ノ洗濯灌溉ニ就テハヨク水ヲ煮熟シテ白  
堊分ヲ急速ニ脱去セシムル事専務ナリ  
若シ一度衣類ヲ冷水ニ浸漬シテ後チ之ヲ煮ル  
ルハ水中ニ含有スル所ノ白堊洗滌スル麻布又  
ハ棉布ノ染色ニ親和密着シテ再ヒ除去スヘカ  
ス殊ニ臍垢ノ汚沁セル衣服ヲ斯ノ如クスル所  
ハ終ニ變シテ暗黒ノ蔦色トナル  
此害ヲ避ケンニハ軟雨水ヲ以テ衣類ヲ煮テ除  
クヘシ又ハ固水ヲ柔軟ニスルカ為メニ曹達ヲ  
用フルモ善シトス或ハ衣類ヲ浸ス前半時間此



水ヲ煎テ前ニ説キタル如ク器物ノ周回ニ白堊  
ヲ残スヲ待テ此害ヲ避クルモ可ナリ  
衣被洗濯ニ用フル所ノ曹達ハ昔時多ク海藻ヲ  
焼キタル灰中ニ之ヲ採リシカ輓近ハ普通ノ食  
塩ヨリ舍密術ヲ以テ之ヲ得ルコト頗ル便利ノ發  
明ナリ

此物ソノ外貌結晶無色ニシテ拆半ノ水分ヲ含  
蓄ス而シテ之ヲ乾燥ノ場所ニ置クキハ水分蒸  
發飛散シテ白粉ノ曹達ヲ残ス此ノ曹達ノ如キ  
ハ白堊ヲ溶解スル所ノ炭酸ヲ引テ以テ固質ノ

水ヲ柔軟ニスルノ効ヲ有ス  
曹達ハ又ヨク汚物塵垢ヲ剥脱シテ清淨潔白ノ  
質ヲ現ス且洗濯ニ用ル水ハ沸騰シテ熱度ノ盛  
ナルキニ用フレハ揉ミ擦スルノ勞少クシテ能  
ク臙垢ヲ脱却ス故ニ務メテ軟質ノ水ヲ以テ灌  
漉スルヲ善トス然リト雖此水モ亦布帛ノ彩  
飾ニ依テ其色ヲ變スル事アリ是故ニ清水ヲ撰  
ンテ再ヒ灌溉セサレハ洗濯ノ後チ錢氣ヲ發ス  
ルカ又ハ空氣ニ觸レ或ハ火ニ乾カスキハ必ラ  
ス黄色トナルヘシ



炭酸<sup>タンサン</sup>剝<sup>ハク</sup>篤<sup>タク</sup>亞斯<sup>アス</sup>ハ布帛ヲ清楚ニ洗脱スルノ質ヲ有スル事頗ル曹達ニ似タル<sup>アル</sup>カラエ<sup>シ</sup>質ノモノナリ此物ハ水灰ヨリ取ルト雖トモ曹達ノ價廉ニシテ且良ナルニ如カス  
灰汁ハ通常水灰ヨリ水ヲ漏出シテ清潔ナラシメンカ為メ再ヒ之ヲ濾滅ス此物ノ洗滌スルカハソノ含メル所ノ炭酸剝篤亞斯ノ分量ニ因ル其用法ハ曹達ト異ナル事ナシ  
石礮<sup>ソウ</sup>ハソノ成分曹達ト脂肪或ハ油或ハ樹脂等ヲ以テ之ヲ製ス曹達ト生石灰トヲ煮ルキハ忽

チ腐蝕スト雖トモ脂肪質ヲ以テ此ノ腐蝕力ヲ中止シ且水中ニ混和シテ容易ク洗濯スルヲ得ルモノナリ  
今時多ク製スル<sup>所</sup>ノ取上<sup>リ</sup>ノ石礮中ニ四分ノ一ハ水分ヲ含ム勿論普通ノモノハ猶水分多キカタメ柔軟ニシテ容易ク溶解ス故ニ豫シメ貯貯シテ適宜ノ大サニ之ヲ切り乾燥ノ場<sup>所</sup>ニ置キ水氣ヲ飛散セシメテ後チ之ヲ用フヘシ  
洗濯スルニ就テ整劑ヲ用フル事ハ石礮ノ<sup>ノ</sup>消耗ト揉擦スルノ工勞トヲ除カンカ為メ種々ノ方



劑ヲ用フル事アリ就中主要ノ成分ハ生石灰ノ  
 加養ニヨツテ腐蝕ヲ醸ス所ノ曹達ナリ此物洗  
 濯ノ功大ナリト雖トモ腐蝕モ亦甚ク峻烈ナリ  
 縱令些少之ヲ用フルモ屢スルルキハ衣類織モノ  
 、經緯ヲ脆弱ニフヘシ  
 此物ノ外ニ加用スヘキハ洗滌店ニ用フル所  
 塩酸石灰是ナリ之ヲ清晒粉ト云フ衣類ヲ潔白  
 一セント欲セハ水一酸質少許リヲ加フレハ尤  
 モ良トス此ノ清曬粉モ亦遇之ヲ用フヘシ屢連  
 用スルルキハ衣類ニ害アリ又ハ色彩料礦物



以テ染タル所ノ色ヲ失却ス  
 洗濯ニ必用ナル所ノ刷毛ハ植物ノ纖維ヲ以テ  
 造レルモノ倫敦英國ノ近傍ノ洗濯店ニ於テ之  
 ヲ用フレハ其毛粗糙ニシテ麻布ヲ洗フニ可ナ  
 ラス  
 カノ及フ丈ハ折々洗濯スルヲ美トス如シ急ク  
 リテ三四週ノ久シキニ涉リ垢膩ノ沁潤セル衣  
 被ハ再ヒ洗淨スル事難ク終ニ惡色ヲ生シ又ハ  
 斑點ヲナスカ或ハ腐蝕スルニ至ルモノナリ故  
 ニ少シク斑點アルヲ見ハ即時ニ之ヲ洗除スヘ



凡ソ衣類ノ臙垢ヲ洗淨スルニハ必先ク脂點油  
黴及ヒ菓物ノ液汁等ヲ洗脱スヘシ菓物ノ浸點  
ヲ洗フニハ清晒粉ヲ以テスヘシ又ハ一旦之ヲ  
用ヒタル後チ巖酸或ハ橙汁ノ如キ酸質ノモノ  
ニ三滴ヲ注クヘシ然リト雖トモ染色ノモノニ  
ハ決シテ酸質或ハ清晒粉ヲ用フヘカラス  
洋墨ノ染斑ハ石礮カ或ハ曹達水灰汁等ヲ用フ  
ルナカレ誤テ之ヲ用フレハ直チニ鐵色ヲ成  
ス必ラス清水ヲ以テ洗滌シ橙汁又ハ塩藏橙汁

亦許ヲ注クヘシ  
洗濯上ニ用フル所ノ粘糊ハ之ヲ製シテ用フル  
迄ハ木板等ヲ以テ之ヲ蓋ハサレハ表面ニ皮膜  
ヲ生スヘシ  
鉛錒ニ粘糊ノ附着スル所ハ密蠟或ハ獸脂ヲ用  
フルヨリハ窠上ノ砂糖塊ヲ用フルヲ良トス  
凡ソ洗滌ニ用フル所ノ水ハ一旦沸騰セシムル  
後ハ火度ヲ減少シテ纔カニ熱點ヲ保ツ大ケノ  
火カヲ残スヘシ  
此洗滌水ヲ激烈ニ沸淬セシムヘカラス假令



初起ハ火力ヲ盛ルニスルモ竊初ノ温度ヨリ増  
 加スルノ理ナシ唯徒ラニ水分ヲ蒸發セシムル  
 ノミ  
 大約毛織類ハ洗淨シテ後チ乾クニ從ヒ收縮シ  
 又ハ染色ヲ失フ等ノ患ハハ洗滌スル時ニ注意  
 セサルカ為メナリ心ヲ用ヒテ鄭重ヲ盡スルハ  
 此ノ患ヲ蒙ル事ナシ且此類ノ物ハ固水ヲ以テ  
 洗フ事勿カレ又曹達ヲ以テ軟和シタル水ヲ用  
 フヘカラス殊ニ石礮ヲ以テ摩擦洗濯スルナ  
 カレ

毛布ハ一般ニソノ一方ニ横リタル微細ノ尖頭  
 フ以テ織<sup>マ</sup>絞<sup>マ</sup>ヲ蓋フカ故ニ之ヲ縦横ニ擦攪スル  
 所ハ忽チ細毛ヲ混雜シテ終ニ收縮シ又之ヲ軟  
 膨シテ厚クスルモノナリ毛織ハ務メテ絞擽ス  
 ル事ヲ禁スヘシ  
 毛布ヲ洗フ所ハ必ラス先ツヨク刷毛ヲ以テ塵  
 埃ヲ拂ヒテ後チ雨水カ又ハ柔軟ナル河水ニ石  
 礮ヲ浸シテ泡起セシメテ後チ之ヲ灌溉スヘシ  
 若シ毛布ニ脂垢多ク沁入スル所ハ水六<sup>一</sup>カ<sup>一</sup>ル  
 ト<sup>一</sup>量<sup>一</sup>五<sup>一</sup>合<sup>一</sup>六<sup>一</sup>勺<sup>一</sup>有<sup>一</sup>奇<sup>一</sup>升<sup>一</sup>ニ牛膽汁半<sup>一</sup>ヒ<sup>一</sup>ン<sup>一</sup>ト<sup>一</sup>ハ<sup>一</sup>我<sup>一</sup>



升量ニ合ハ  
ハカルフ度トシ右毛布ヲ入レ數度洒注スヘシ  
然シテ後チ汚穢セル水ヨリ出シテヨク此ノ濁  
汁ヲ滴去シ再三清淨ナル泡沫水ヲ以テ之ヲ灌  
漑スヘシ

又膩垢ノ甚タ固著セサルノ毛織ハ一ト度全ク  
清滌スル時ハ再度目ニハ石礮ヲ用ヒスシテ熱  
湯ヲ以テ之ヲ洗濯スヘシ  
牛膽汁ヲ用ヒテ洗滌スルキハ三度目ニハ惡臭  
ヲ去ルカタメニ清水ヲ以テ之ヲ洗濯スヘシ

此件ノ事果テ後カノ及フ限リハ之ヲ緊搾シテ  
晴天ナルノ日ハ速カニ氣中ニ出シテ之ヲ乾カ  
スヘシ



